

進路「夢」実現



進路だより第3号

令和3年12月24日

大笹生支援学校キャリア支援部

高等部後期現場実習を終えて

高等部3年2組 H・S

私は後期現場実習で、川俣町にある「ダイユーエイト川俣店」で10日間実習をさせていただきました。今回の実習では、8のつく日「ダイユーエイトの日」も実習をしました。仕事内容は灯油販売、定番補充、前出しです。

灯油販売では、お客様からのレシートを確認して返す時の渡し方や失礼のない言葉遣い、灯油がこぼれないようにタンクに入れることを気をつけました。定番補充では、お客様の手が届くくらいの位置に補充や前出しをしました。「ダイユーエイトの日」は灯油の注文が多く、補充をしている間に何度も灯油を入れる繰り返しの仕事が大変でした。しかし、重い灯油タンクをお客様の車まで運び終えた後、店長を通じてお客様からお礼があったことを聞き、とてもうれしかったです。

実習をすることで、お客様だけでなく社員の方とのコミュニケーションを取ることの大切さをとて感じました。卒業後も学んだことが発揮できるよう、残り少ない学校生活もがんばりたいと思います。

高等部2年4組 I・Y

私は、11月8日から11月19日まで、「すてっぷ」という事業所で後期現場実習を行いました。

「すてっぷ」では「アパート清掃」「フルーツキャップ折り」「ジェラートの配達」などの仕事をしました。

清掃の仕事は、事業所の方の車にのって、アパートのげんかんや入り口のドアをぞうきんをしばって、ていねいにふきました。

わからないときは、事業所の方たちに何度も教えていただいたので仕事の内容がわかりました。

これから学校でも、どんな仕事も真面目にこつこつやるのが大切だと思います。

自分から連絡、報告、相談をすることを学びました。また、自分から元気にあいさつすることを心がけていきたいと思います。

社会人にむけてがんばりたいと思います。

高等部2年担任 大橋 清香

後期実習に取り組むにあたり、生徒達と前期の反省を踏まえて取り組むことや、周囲の人と適切なコミュニケーションをとることを意識するように話をしました。前期と異なる場所で実習を行う生徒も多く、初めは緊張していましたが、2週目には元気にあいさつをしたり、自分から職場の方にアドバイスを求めたりする様子が見られ、それぞれ目標を意識し自信をもって取り組んでいることがわかりました。今回の反省やアドバイスを受けて、日々の生活の中で自分が何に取り組むべきか考え、意識して行動していった欲しいと思います。巡回や反省会で話題に挙がったことから、帰宅後に、ご家庭で今日の仕事について話題にし、体調の把握やアドバイスをしてくださっていることがうかがえました。今後、進路を決定していくにあたり、身近に相談できる人がいることは生徒達にとって何より心強いことだと思いますので、今後も些細なことでも話し合うことを大切にいただければと思います。

来年度は、これまでの経験を踏まえて進路決定に向けて具体的に考える時期となります。

「働く」ことについての責任や社会人としてのふるまいについてしっかりと考え、夢が実現できるよう、指導・支援をしていきたいと思いません。

高等部3年担任 大庭 千栄子

今回の後期現場実習は、3年生にとって今後の進路決定のためにとても大切な実習でした。生徒たちは実習前から、社会人として大切なことや実習の心構えなど、多くの先生方から話を聞いたり、実習先の方からお話ししていただいたことを意識しながら生活してきました。それらのことを胸に、緊張感を持って実習に臨んでいたと思います。

実習先から主に言われたことは、「素直な気持ちで取り組むこと」「お客様、人のためによりよい行動をすること」「あいさつ、報告、連絡、相談がしっかりできること」が大切だということでした。

生徒たちはこの3年間、様々な環境の中で、人間関係で悩んだり、失敗したり泣いたり喜んだり、たくさんの経験をしてきました。これからは、さらに広い社会で多くのことを学んでいくと思います。その中で、自ら考え、周りや相談しながら力強く生きていけるように、残りの学校生活でも生徒一人一人に向き合いながら、保護者の方々と協力して生徒の進路実現のために支援していきたいと思いません。

中学部校内実習を終えて

中学部2年1組 S・K

11月1日から12日まで校内実習がありました。

ぼくは、家庭生活班で コースターとアクリルたわしを作りました。「長いじかん集中してとりくむことをがんばる」を目標にしました。

コースターのミシンがけのとき、手で針をさわらないように注意しながら布をおさえて、ゆっくりと縫うことを気をつけました。コースターのまがり角を縫うときが難しかったけれどがんばったので、じょうずにできました。

3年生になったら、木工班をやってみたいです。

中学部3年2組 A・T

わたしは木工班で塗装や加工の仕事を担当しました。のこぎりで木材を切る仕事にも初めて挑戦しました。透明な塗料で、花台を塗ることやサンダーで片面5回ずつみがくのが難しかったです。機械や道具の正しい使い方を覚えることが大切だと感じました。2週間の実習で、学校に遅刻しないために早寝早起きをするように気をつけたいと思いました。

また、昼休みにほかの学年の友達と野球をするなど、いつもと違う過ごし方をして、楽しいこともありました。

高等部に入学できたら、現場実習では現場の上司のことをきいて、ルールを守って仕事に取り組みたいです。

中学部教諭 丹治 みちよ

中学部では11月1日から12日までの9日間、校内実習を行いました。木工班、紙工班、家庭生活班の3班に分かれて活動しました。木工班は花台や机上台、紙工班は各種メモ帳やポストカード、油とり、家庭生活班はコースターとアクリルたわしの製作を行いました。

「長い時間集中して取り組む」「あいさつ、返事、報告をしっかりとる」「丁寧に心を込めて製品を作る」などのめあてをもち、働くために必要なことを意識しながら活動しました。

2週にわたって学級を離れ、他学年の仲間と一緒に長い時間の活動をするのは、普段の学校生活ではできない貴重な学びの機会となりました。働くことの厳しさや、みんなで協力して製品をたくさん作る喜びや達成感を得られたことと思います。新たな課題の発見もあったと思います。今後は、自分の目標や課題に向けてさらに努力を続けられるよう支援を続けていきたいと思っています。

保護者進路研修会に参加して

12月7日（火）に、視聴覚室にて、株式会社ヨークベニマルの白瀬敏子人事室マネージャーと県北障害者就業・生活支援センターの五島勉センター長のお二人からの講演を聴講しました。参加者の皆様から、以下のような感想をいただきました（研修会のアンケートから抜粋）。

①株式会社ヨークベニマル 白瀬敏子人事室マネージャー

- 働くために必要なことを教えて頂きました。家庭内でもできることがあると思うので、身に付けられるようサポートしていきたいです。（小6）
- 障がい者に対する就労に取り組んでいたのだと思いました。ベニマルさんのように改善しながらの支援、とても良かったです。他の企業さんでもどんどん増えると良いなあと思いました。（中2）

②県北障害者就業・生活支援センター 五島勉センター長

- 就職に向けて分からないことが多くて不安がある中、とても分かりやすく方向性を示して下さい、ありがたかったです。また、就職後でも職場訪問をして下さったり、家庭・職場の間に入って下さったりすることは、とても心強く感じました。（小2）
- 進路研修会に何度か参加し、いつも実行しようと思って帰りますが、またあらためて大切なことを感じました。自分の子にあったことをみつけてあげたいと思います。（中2）
- 本人の得意を生かして、本人がいきいきと仕事や余暇を楽しんで暮らせるように大切なことをお話いただき、勉強になりました。困ったときに相談できる場所があることは、子も親もありがたいです。（中2）
- 相談できる場所だということを知ることができました。そういう場所があることで、安心につながりました。（高1）